一疏风解表清热退烧类

一疏風解表清熱退燒類

（一）麻黄桂枝

【单味功用】

麻黄味辛、微苦，性温。入肺、膀胱经。本品中空而浮，长于升散。它既能发汗散寒而解表，用于治疗外感风寒，以致恶寒发热、头痛鼻塞、无汗、脉浮紧等表实证，又能散风止痒、散邪透疹，用于治疗麻疹透发不畅，以及风疹身痒等症，还能宣肺平喘、利尿消肿，用于治疗风寒外束，肺气壅闭，以致咳嗽气喘、胸闷不舒，以及水肿兼见表证者。另外，还可温散寒邪，以治风湿痹痛，阴疽痰核诸症。

麻黄の味は辛く、微苦で性質は温にして肺、膀胱経に入る。中が空で浮き、昇散になり、発汗散寒して解表する。外感風寒の治療に使い、悪寒発熱、頭痛鼻塞、無汗、脈浮緊などの表実証に用いられる。また散風止痒、散邪透疹の麻疹発不暢の治療に使われ、水腫に表証を兼ねる者に用いられる。その他、これは寒邪を温散できるので、風湿痹痛、陰疽痰核諸症を治す。

桂枝味辛、甘，性温。入心、肺、膀胱经。本品为肉桂的嫩枝，体轻，色赤，有升无降。其功用：①解肌发表、调和营卫、温阳化气、利水消肿，用于治疗体弱表虚、外感风寒，症见发热、恶风、微有汗出、而表证不解者；②治心脾阳虚、水湿内停，以致胸胁支满、心悸、气短，以及浮肿、小腹胀满、小便不利等症；③能横行手臂、温经通脉、祛风除湿、宣通闭阻、散寒止痛，用于治疗胸阳不振、心血瘀阻，以致胸膈不利、胸满闷痛、痛引肩背、心悸、气短、脉结代等症；④治风寒湿邪侵袭经络而引起的关节疼痛，以及妇女经寒瘀滞、月经不调、闭经、痛经诸症。

桂枝の味は辛甘、性質は温であり心、肺、膀胱経に入る。肉桂の柔らかい小枝で、軽く色は赤く昇る性質があり、降りる性質は無い。効用①解肌発表、調和営衛、温陽化気、利水消腫があり体弱表虚の外感風寒を治す。症状は発熱、悪風、わずかに汗が出て表証が解しない者；②心脾陽虚にて水湿内停し、脇肋支満、心悸、気短をするもの、さらに浮腫、小腹脹満、小便不利などの症状を治す。；③手肘の横行、温経通脈、祛風除湿、宣通閉阻、散寒止痛する胸陽不振、心血瘀阻を治し胸膈不利、胸満悶痛、痛引肩背、心悸、気短、脈結滞などの症状に用いる；④風寒湿邪が経絡を侵襲し引き起こされる関節疼痛、さらに婦女の経寒瘀滞、月経不調、閉経、痛経諸証を治す。

【伍用功能】

麻黄辛温气薄，中空外达，善行肌表卫分，开腠理散寒邪，开玄府以发汗；桂枝辛温发散，色赤入营，解肌以和营，协同麻黄入于营分，随麻黄又出于血分，以引营分之邪达于肌表，令汗出而解。二药伍用，发汗解表，善治风寒感冒，恶寒发热，头、身疼痛之表实证，为辛温解表之重剤。

麻黄の辛温気薄は中空によって外達し、よく肌表の衛分を巡り腠理を開き寒邪を散じ、玄府を開き発汗する；桂枝も辛温発散し、色の赤は営に入り、解肌により営を和す。麻黄と協力し営分に入り麻黄に従い血分に出て、営分の邪を肌表に引き出し、汗を出させて解する。二薬の互用により、発汗解表し、よく風寒感冒、悪寒発熱による頭、身疼痛の表実証を治し、辛温解表の重剤となる。

【主治】

1.感冒风寒，以致发热、无汗、恶寒、怕风、头身疼痛之表实证；

2.风寒湿邪所致之痹痛诸症；

3.表邪壅盛，阳气不得宣发，而致咳喘诸证。

【常用量】

麻黄 3～6 克。

桂枝 6～10 克。

【经验】

麻黄、桂枝伍用，出自仲景《伤寒论》麻黄汤。用于治疗太阳病风寒在表之表实证，风、寒、湿三气所致之痹症，以及冷风哮嗽。

麻黄、桂枝の互用は仲景《傷寒論》の麻黄湯より出ている。太陽病風寒表に在る表実証を治し風、寒、湿の三気による痹証、さらに冷風哮嗽に用いる。

麻黄、桂枝配伍用，为辛温解表重剂，其开腠理散寒邪之作用最强，尝治高寒地区患者，冬季深夜外出，被大寒所袭，恶寒发热，四肢疼痛，不能转动，用麻黄汤一剂而解。此时麻黄开玄府行卫气,桂枝解肌表和营气同时并重。若以治痹痛，则用桂枝温经散寒，并以通血脉为主，而麻黄解风寒宣卫气为辅（麻黄配桂枝治痹痛，仍以风寒痹痛为宜，或佐以附子、防风，其效更佳）,用以治喘，则麻黄为之专功，而须以麻黄为主矣。

麻黄、桂枝の配合は、辛温解表の重剤となり、腠理を開いて寒邪を散ずる最強の作用を持つ。これによって高地の寒冷地区の患者や冬季に深夜外出し大寒に襲われ悪寒発熱、四肢疼痛、転動できないものに、麻黄湯一剤を用いて解する。この時の麻黄は玄府を開き、衛気を行らせ、桂枝の解肌は表の営気を和し同時にあわせ重んじる。もし痺痛を治すのなら桂枝の温経散寒を用い、あわせ

て血脈を通すことを主とし、麻黄の風寒を解し衛気を広げる助けとなる。（麻黄に桂枝を配し痺痛を治すのは、さらに風寒痺痛に宜しく、また附子、防風の助けを持てばさらに効果がよい）喘を治すのに麻黄は専用の効果があるので、麻黄を主とすべきである。

滕宣光云：用桂枝 6 克，麻黄 3 克，从未见发汗，反而见平喘止咳，可见里外俱所致的哮喘证，非桂枝助麻黄莫属。

滕宣光は：桂枝 6g、麻黄 3g を用いて発汗が見られず、反って平喘止咳が見られれば裏外ともに哮喘証には、ぜひとも桂枝に麻黄の助けでなければならない（桂枝と麻黄を使うべき）と言っている。「非～莫～」　是非とも～でなければならない